

組織的な支援・サポート体制の大切さ

富里市立富里南中学校教諭

ふじい としひで
藤井 聡秀



1 はじめに

私は昨年度までの5年間、酒々井町立酒々井中学校で勤務していた。今回は前勤務校である酒々井中学校の長欠・不登校対策について紹介させて頂く。

2 本校の生徒指導目標について

本校の生徒指導の目標は「元気な挨拶とけじめのある行動ができる生徒を育成し、一人一人が存在感を自覚できる学校をつくる」である。さらに、長欠・不登校対策として、「日常のふれあいと観察を心がけ、問題の早期発見と対応を心がける」「学級活動、委員会活動、係活動に生徒一人一人の責任を持たせ、その役割を果たすことで、各自の学級での所属感や責任感を高められるように心がける」を目標として日々指導・支援を行っている。

3 長欠・不登校対策の具体的な取組

「日常のふれあいと観察を心がけ、問題行動の早期発見と対応を心がける」の具体的な取り組みとして、毎週1回、生徒指導会議と適応指導会議を行って問題の早期発見、対応方法を協議→実践→経過・結果報告を行っている。生徒指導会議では、各学年から1名は必ず担当者が参加し、会議資料を学年内で回覧し全職員で共通理解を図っている。会議の場では、「こう指導・支援してみたら、こうなった」などの具体的な話ができるので、次の指導・支援方針を考えるヒントにもなっている。適応指導会議については、町の適応指導担当者やスクールカウンセラーも出席しているので、学校外での様子や、生徒の内面、学校

で見せない一面などの情報が共有できることがメリットである。また、スクールソーシャルワーカーの活用も積極的に行い、指導・支援の方向性の確認や各関係機関との連携を図っている。「学級活動、委員会活動、係活動に生徒一人一人の責任を持たせ、その役割を果たすことで、各自の学級での所属感や責任感を高められるように心がける」の具体的取組として、各学級で自分の役割をきちんと忘れずに最後までやり遂げられるように指導・支援を行っている。特に毎日の活動になる週直については、次の日の準備（黒板の日付、教室の美化・整頓等）を確実にしてから放課後の活動に参加させている。

4 今後の取組として

私が酒々井中学校で学んだことは、組織的に生徒と関わるサポート体制の大切さである。担任として中学2・3年生で関わったある男子生徒は、中学1年生の2学期頃から教室に登校できず、校内適応指導教室や町の適応指導教室に通っていた。校内・町の適応指導教室の担当者との情報交換の場（適応指導会議）を通して、担任としてどう関わったらよいのかというヒントが得られた。これにより、見通しが持てるようになり、本人の力で進路決定をし、卒業式でも呼名による返事、登壇して証書を受け取ることができた。酒々井中学校で学んだ生徒に対する組織的な関わり、サポート体制の大切さを今後も行っていけるように、この経験を今後の勤務校でも生かしていきたい。